

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：25407

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330259

研究課題名(和文)「ESD」にアプローチする「地域・世界遺産教育」の創造

研究課題名(英文)Creation of Local and World Herrytage Education to approach ESD

## 研究代表者

田淵 五十生(TABUCHI, ISOO)

福山市立大学・教育学部・教授

研究者番号：10179864

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：「ESD」は「21世紀における市民教育」(Citezensip Education)である。我々は、「ESD」のツールとして、新しく「世界・地域遺産教育」と云う概念を造り、「何処でも誰でも」実践ができる「教材事例集」を作成した。それは、研究協力者が日本の世界遺産の全てにフィールドワークを行い、授業実践にかけて作成したものである。それを使用すれば「何処でも、誰でも」ESDにアプローチ可能な内容になっている。また、日本の教育現場では、「グローバル・シティズンシップ教育」の概念は未知である。我々は、その概念を紹介して「多文化共生」の実践事例集付きの冊子を刊行した。

研究成果の概要(英文)： "ESD" is "Citizenship Education in the 21st century". We created a "Notion of the Regional and World Heritage Education" as a "Tool of "ESD" in order to make any teachers can approach to ESD with accuracy .We collected " Educational Lesson Plans" with the help of collaborated researchers and teachers who made field work at all the World Heritage Cites in Japan. Also they have experiences of making educational materials and examined own educational practices.

As another aspect we introduced "The Notion of Global Citizenship Education". It is unknown among Japanese Teachers. We discussed to make clear the Notion of it by International Workshop with International researchers. We made a Booklet on "Grobal Citizenship Education with how to make practice on it. The Booklet is consist of introducing Theory on " Global Citizenship Education "of Advanced Countries of it such as England and Canada. The Booklet insists the necessity of making Multi Cultural Communities.

研究分野：教科教育

キーワード： ESD 世界遺産教育 地域遺産教育 環境教育 平和教育 人権教育 多文化共生 シティズンシップ教育

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 2005年度、国連が「ESD10年」(D-ESD)を提起した時、多くの教育現場は“ESD=What”の状況であった。研究代表者である田淵は、ユネスコの動向を察知して、2008～10年にかけて、「ユネスコの提起する世界遺産教育の内容と教育方法の創造」と題するテーマで科学研究費を受けて、その『報告書』(総ページ200)を刊行した。また、奈良市をはじめとする世界遺産を有する地方自治体をネットワークして「世界遺産教育連絡協議会」発足させた。その組織は、毎年、「世界遺産教育サミット」を開催し、全国のそれぞれの地域で、ESDとリンクさせた世界遺産教育の実践力を深化させている。

けれども、世界遺産を持たない多くの地域の教育現場では、ESDに対する反応は鈍かった。そこで、たとえ世界遺産が存在しなくても、それぞれの地域にある優れた文化遺産や、次世代に遺したい美しい景観などの「地域の文化遺産や自然遺産」に注目して教材化すれば、その教育はESDに通じており、ESDは全国どの地域でも実践可能であると訴えて、「地域・世界遺産教育」という概念を提起した。

(2) 「シティズンシップ教育」は2000年代に英国を中心にEU圏、カナダ、米国に影響を与えている。そして、現在では、マレーシア、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドなど世界的(Global)に拡大しており、現時点では「グローバル・シティズンシップ教育」が論じられている。けれども、日本で注目する研究者は非常に限定されていた。

## 2. 研究の目的

(1) 日本の学校教育現場にESDを浸透させることが最大の目標であった。その具体的な方略として、「総合的な学習の時間」や小学校高学年・中学校の社会科教育で「何処でも・誰でも」実践できる「地域・世界遺産教育」をツールにしたESDの教材事例集を作成することにした。

(2) 他方、「グローバル・シティズンシップ教育」については、その理論的分析と先進的な実践を展開している国々の研究者とのワークショップを開催して、「我々が地球市民社会の構成員である」という意識を内面化させる実践プランを明らかにしようと考えた。

## 3. 研究の方法

研究方法は、文献調査、フィールドワーク、授業実践とそれを考察したアクション・リサーチ、実践成果を持ち寄ったワークショップである。文献調査は研究テーマに関する内外の書籍である。フィールドワークは日本の全ての世界遺産サイト、および比較参照する海外の世界遺産サイトである。

授業実践とそれを考察したアクション・リサーチであるが、実際に授業実践の場(教室)を持つ研究協力者が授業実践にかけて、実践を対象化した考察を行い改良するアクション・リサーチを行い、実践知を研究者間で共有しようと

いうものである。

実践成果を持ち寄ったワークショップは「地域・世界遺産教育」については国内研究者と教育現場に軸足を置いている研究協力者で行い、「グローバル・シティズンシップ教育」では海外の研究者と国内の研究者の間で行う形式にした。国内の責任者は分担研究者の池野が務めた。

## 4. 研究成果

(1) 「地域・世界遺産教育」がESDのツールになる教育的な認識の獲得

「世界遺産教育」(略称WHE)は既に世界的に認知されているが、世界遺産を通して自分たちの地域の文化遺産や自然景観を意識的に見直すことでESDにアプローチ可能である経緯が社会科教育学会や教育現場で深まっている。「日本社会科教育学会」「全国社会科教育学会」「社会系教科教育学会」で研究代表者のみならず分担研究者、研究協力者の発表が相次ぎ、「ESDのツールとして『地域・世界遺産教育』の必要性」は教育現場の先生方の腑に落ちる形で認識されはじめている。その経緯は、「日本社会科教育学会」2014年度の研究会の課題研究テーマで「ESDで社会科はどう変わるか」が討論されたことに見ることができる。

また、日本国際理解教育学会の学会誌『国際理解教育』(第18号2012年)は「ESDと国際理解教育」の特集号である。そこには、研究代表者の田淵と研究協力者の祐岡の「国際理解教育としての世界遺産教育」が掲載されているが、内実は「地域・世界遺産教育」とESDについて論じたものである。

(2) 「世界遺産学習全国サミット」を通してのESDの浸透

研究代表者が奈良教育大学に在籍していた2010年に奈良市教育委員会と連携して、世界遺産が存在するか世界遺産登録を目指す地方自治体の教育委員会をネットワークする「世界遺産学習連絡協議会」を結成させた。それ以降、「世界遺産学習全国サミット」は、分担研究者の西山と中澤が中心となって毎年開催されて、2014年11月9日に第5回大会が開催された。ちなみに同大会では9分科会18本の実践報告が行われている。

現在「世界遺産学習連絡協議会」に加盟している地方自治体の教育委員会は26に達して全国規模になっている。毎年、それぞれの地域から実践報告が提出されて、参加者間で実践知の共有と蓄積が継承されている。

(3) 分担研究者中澤と奈良教育大学のESD推進活動

研究代表者が奈良教育大を去った後は、分担研究者の中澤静男が中心になってESD浸透の推進役を果たしている。奈良教育大学は2007年7月に大学として最初にユネスコスクールに加盟し、ユネスコスクールを支援する大学間ネットワーク「ASP Univ.Net」を組織した。そして、中澤が組織の事務局長を引き受け、各種の企画を通して日本におけるESD推進の牽引役を果たしている。その具体的な一つが、「ユ

ネスコスクール研修会」を4年間で13回も開催している事実である。参加者総数は2000名を超えている。

また、2013年には、「第4回ユネスコスクール全国大会」の会場校として、企画・運営を行っている。さらに、学内に学生を組織した「ユネスコクラブ」を立ち上げ、台風被害に遭った世界遺産の熊野古道の道普請ボランティア活動や東日本大震災では大学を挙げての支援活動を行った。

2014年10月に開催された「国連持続可能な開発のための教育の10年」の閉会総会で、日本が提出した『ジャパンレポート』の中の第3部に「日本の優良事例 30例」が挙げられているが、大学の優良事例は、宮城教育大学と奈良教育大学の二大学だけである。その評価がすべてを物語っている。

#### (4) 研究代表者の地域遺産の教材化の成果

研究代表者の田淵は、2011年4月から新設された福山市立大学(広島県)に移った。田淵は、福山駅頭の「五浦釣人像」(文化勲章を受章した平櫛田中が岡倉天心をオマージュした像)に注目して、それを教材化した実践報告を日本社会科教育学会で発表を行った。それは、地域の文化遺産を掘り起こして教材開発の事例として一般化でき、小学校段階でも中学校段階でも可能である。実践した田淵の意図と受講者全員のレポートが掲載された中間報告書(その1)『仲間と共に学び合った福山の歴史と文化遺産』(A4版 総ページ 82)として刊行されている。地域遺産の教材化の理論を共有化を意図したものである。さらに「社会科指導法」の授業で学生たちを8つの文化遺産へフィールドワークさせて、教材化する実践報告を、中間報告書(その2)『地域の文化遺産教材化』(A4版 127頁)を刊行して、地域の文化遺産の教材化の方途を示した。

#### (5) Global Citizenship Education の理論的考察

グローバル・シティズンシップ教育の実践の可能性を探る国際的なワークショップは、研究分担者である池野範男と草原和博を中心にして行われた。2度の国際会議を経て『多文化と社会的包摂の視点から考えるシティズンシップ教育』(総ページ 155)というタイトルで刊行された。また、池野の研究成果のエッセンスは、日本教育学会の『教育学研究』(第81巻第2号 2014年)に「グローバル時代のシティズンシップ教育 問題点と可能性：民主主義と公共の論理」に掲載されている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計10件)

田淵五十生 人権の立場から現場を動かす「まなざし」とは 異文化間教育 査読有 41号 2015 47-62

池野 範男 グローバル時代のシティズン

シップ教育 - 問題点と可能性：民主主義と公共の論理 - 教育学研究 査読有 81 巻第 2 号 2014 138 - 149

Norio Ikeno As Citizenship Globalization, Why Do Individual Counties and Regions Differ in their Approach to it? The Journal of Social Studies Education 査読有 Vol. 3 2014 37 - 52

中澤 静男 国際理解教育における ESD で優先すべき学習内容 - 持続可能な社会づくりに関する課題の整理から - 国際理解教育 査読有 20号 2014 3 - 12

中澤 静男 春日山原生林題材とした ESD の実践 奈良共育大学教育実践開発センター研究紀要 査読有 第23巻 2014 169-174

中澤 静男 田淵五十生 ESD で育てたい価値観と能力 奈良共育大学教育実践開発センター研究紀要 査読有 第23巻 2013 65-73

祐岡 武志 田淵五十生 国際理解教育としての世界遺産教育 国際理解教育 査読有 第18号 2012 14-23

田淵五十生 マイノリティー子どもたち組織化と保護者の連携 多文化教育の可能性を求めて 社会科教育研究 査読有 116号 2012 25-34

田淵五十生 異文化間教育と人権教育のインターフェイス 異文化間教育 査読有 40号 2011 64-74

池野 範男 社会形成力を育てる(市民)教育 学校教育 査読有 127巻 2011 6-13

#### 〔学会発表〕(計10件)

田淵五十生 ESD にアプローチする社会科教育 社会系教科教育学会 2015年2月21日 兵庫教育大学 兵庫県 加東市

Norio Ikeno Education and drama in Japan and England The International Seminar hosted by Centre for Research on Education and Social justice (招待講演) 2014年12月10日 University of York York City U.K.

Norio Ikeno The Purposes of Lesson Study on Subject Pedagogy and its Contribution to Education Study Korean Association for Learner-centered Curriculum and Instruction (招待講演) 2014年11月21日 Dunksung Women's University, Seoul South Korea

中澤 静男 ESD とボランティア活動の関わり 十津川道普請を通して 日本国際理解教育学会 奈良教育大学 2014年6月15日 奈良県 奈良市

田淵五十生 人権の立場から現場を動かす「まなざし」とは 異文化間教育学会(招待講演) 2014年6月8日 同志社女子大学 京都府 京都市

草原 和博 教師の授業づくりを支援する地理・歴史・公民研修資料<学習材>開発 授

業モデルの批判的学習のために 全国社会科教育学会 山口大学 2013年11月10日 山口県 山口市

田淵五十生 加害と被害の歴史を持つ者の和解の方途は 地域・世界遺産教育と平和教育 日本国際理解教育学会 2013年7月7日 広島経済大学 広島県 広島市

中澤 静男 ESD で優先すべき学習内容について 日本国際理解教育学会 2013年7月6日 広島経済大学 広島県 広島市

田淵五十生 地域の文化遺産学習を通してグローバル教育に迫る 岡倉天心と平櫛田中 日本社会科教育学会 2012年10月21日 岐阜大学 岐阜県 岐阜市

田淵五十生 社会科と ESD 地域・世界遺産教育を切り口にして 全国社会科教育学会 2011年10月8日 広島大学 広島県 東広島市

〔図書〕(計8件)

田淵五十生監修 大好き!福山(上)(下) 福山市教育委員会 2015 総ページ246

秋山伸雄、大知徳子 宮島学 溪水社 2014 総ページ202

中澤静男 古都奈良を舞台にした大人のESD BIO CITY 2014 総ページ156

池野範男 地域からの社会科探求 日本文教出版 2014 総ページ278

加賀美富美代 田淵五十生 多文化共生論 明石書店 2013 総ページ347 執筆部分第2章32-51

田淵五十生 地域の文化遺産の教材化 自家製版 2013 総ページ127

中澤静男 祐岡武志監修 学べる!世界遺産の本 あをによし文庫 2012 総ページ213

田淵五十生 仲間と学びあった福山の歴史と文化遺産 自家製版 2012 総ページ82

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者  
田淵 五十生 (TABUCHI ISOO)  
福山市立大学・教育学部・教授  
研究者番号: 10179864

(2) 研究分担者  
池野 範男 (IKENO NORIO)  
広島大学・教育学研究科・教授  
研究者番号: 10151509

草原 和博 (KUSAHARA KAZUHIRO)  
広島大学・教育学研究科・教授  
研究者番号: 40294269

秋山 伸隆 (AKIYAMA NOBUTAKA)  
県立広島大学・人間文化部・教授  
研究者番号: 60142337

大知 徳子 (OOCHI NORIKO)  
県立広島大学・宮島学センター・助教  
研究者番号: 50549243

中澤 静男 (NAKAZAWA SHIZUO)  
奈良教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号: 80613710

森本 弘一 (MORIMOTO KOUICHI)  
奈良教育大学・教育学部・教授  
研究者番号: 70243350

西山 厚 (NISHIYAMA ATUSHI)  
帝塚山大学・文学部・教授  
研究者番号: 10167570

吉澤 悟 (YOSHIZAWA SATORU)  
独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館・その他部局等・室長  
研究者番号: 50393369

五島 政一 (GOTOU SEIICHI)  
国立教育研究所・その他部局等・統括研究官  
研究者番号: 40311138